

第1回三豊市総合計画審議会

会議録 【全文】

日 時	平成29年10月16日（月曜日）13時30分～15時00分
会 場	三豊市危機管理センター201会議室
出 席 者	別紙名簿参照 (欠席者：なし)
次 第	<p>(開 会)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付 2. 副市長あいさつ 3. 出席者紹介 4. 説 明 <ul style="list-style-type: none"> ・三豊市総合計画審議会条例 ・三豊市総合計画審議会会議運営規則 ・三豊市総合計画審議会の会議の公開に関する要綱 5. 会長及び副会長選出 (会長あいさつ) 6. 諮 問・・・「三豊市第2次総合計画」の策定について 7. 議 事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 三豊市第2次総合計画・策定方針について (2) 第2次総合計画策定のための市民、子どもアンケートについて 8. その他 <p>閉 会</p>
配 布 資 料	<p>資料1 三豊市総合計画審議会委員名簿</p> <p>資料2 三豊市総合計画関連例規</p> <p>資料3 三豊市第2次総合計画・策定方針</p> <p>資料4 市民アンケート様式</p> <p>資料5 子どもアンケート様式</p>
会 議 の 概 要	<p>開会</p> <p>(事務局)</p> <p>それでは、定刻より少し早いですけれども、皆様お揃いですので、会議を始めさせていただきたいと思います。ただいまから、第1回三豊市総合計画審議会を開会いたします。足元の悪い中、また、お忙しいところ御参集いただきまして、まことにありがとうございます。本日の進行につきましては、私、政策部田園都市推進課の課長を務めております、石原のほう</p>

で進めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、横山市長ですが、急な公務のため、本会議を欠席させていただきたく存じます。かわりに小野副市長のほうが出席をしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、会次第 1 の委嘱状の交付をさせていただきます。皆様におかれましては、審議会委員の就任について御快諾をいただきまして、まずもってお礼を申し上げます。まことにありがとうございます。

お手元に、資料 1、審議会委員名簿をお配りさせていただいておりますけれども、審議会条例第 3 条の規定によりまして、今回 15 名の委員様を選任させていただきました。委員の任期につきましては、「当該諮問に係る審議が終了するまでの期間」となっております。策定スケジュール等につきましては、後ほど御説明をさせていただきます。

1. 委嘱状交付

(事務局)

それでは、小野副市長より委嘱状の交付をさせていただきます。なお、委嘱状の交付につきましては、代表の方 1 名のお名前をお呼びさせていただきますので、お名前を呼ばれた方につきましては代表ということで、お手数ですけれども前の方へお進みいただけたらと思います。

それでは、委嘱状の交付をいたします。則久郁代様、前のほうへお進みください。

(副市長)

委嘱状、則久郁代殿。三豊市総合計画審議会条例第 3 条第 2 項の規定に基づき、三豊市総合計画審議会委員を委嘱する。委嘱期間、平成 29 年 10 月 16 日から諮問に至る審議が終了した日まで。平成 29 年 10 月 16 日、三豊市長、横山忠始、代読。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(則久)

よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。なお、委員の皆様の委嘱状につきましては、机のほうに御準備させていただいておりますので、御確認のほういただけたらと思います。

2. 副市長あいさつ

(事務局)

それでは、次に、小野副市長のほうより御挨拶を申し上げます。

(副市長)

皆さん、こんにちは。御紹介いただきました副市長の小野でございます。

先ほど、司会の石原課長のほうから話がありましたように、今日は横山市長が他の公務で不在でございますので、かわりまして私のほうから御挨拶をさせていただきますことをお許し賜りたいと存じます。

本日は大変お忙しい中、また、足元の悪い中でございますけれども、第1回の三豊市総合計画審議会に御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。また、先ほどは委員の皆様方の、ほんとに委員として快くお引き受けをいただきましたことを、そしてまた日頃は、市政全般にわたりまして、何かと御尽力、また、御支援をいただいておりますことに対しまして、高いところではございますが、まずはお礼を申し上げたいと思いません。どうもありがとうございます。

さて、御案内のとおり、三豊市も合併をいたしまして、もうすぐ丸12年を迎えようとしています。混乱期にありました合併当初から12年ということでございますが、これまで市政の中心として「自主・自立」、また「市民力」ということを冠に掲げまして、いろいろな事業をこれまで展開をしております。

そのこともありまして、ほんとに多くの市民の皆様方の御理解、また御支援、また御活躍もありまして、何とか市としての形態、形を整えることのできたこの10年、もしくは12年でなかったかなというふうに思っております。市長の言葉をそのままお借りしますと、そういう意味での第1ステージは、ここで終了したということで、新たにこれから三豊市での第2ステージが始まるんだと、こういうような時期にきているのではないかなというふうに思っております。

ただいま三豊市が策定しております、新総合計画につきましては、平成30年までということでございますので、31年から向こう10年間の第2次の総合計画というのを、新しく三豊市で仕立てていかないと、もうこのような時期になっておりまして、そういう意味での委員の皆様方のお知恵をお借りしたいということで、今回こうして委員をお受けいただいたということになっております。

しかし、一方では、御案内のとおり、どこの自治体でも同じでございますけれども、人口が減少しており、少子高齢化の中で生産年齢人口も減っていると同時に、そういったことから税収も減る。また、三豊市におきましては、合併の特例になっております、いわゆる交付税の算定一本化で交付税も減収し、それから、人口減少により税収も見込めないということで、

ほんとに財政的には厳しい段階を第2ステージで迎えるということになっています。

そういった中で、三豊市をこれまで同じように活気を持って、そしてまた発展させていくためにはどのようにしたらいいか。ここはやっぱり、皆さん市民と一緒にあって、行政も一緒にあって、知恵を出し合って、良いまちづくりをしていかないといけないというふうに思いが強いところでございます。

今回こうして新総合計画につきまして御審議をお願いするわけですが、委員の皆様には忌憚のない御意見を出していただいて、素晴らしい計画となるように御期待を申し上げておりますので、簡単でございますけれども、冒頭のお願いとご期待を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3. 出席者紹介

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、会次第3番、出席者紹介に移ります。大変恐縮ですが、委員の皆様は、そちらの則久様のほうから自己紹介を反時計回りでしていただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひします。

(則久委員)

皆さん、こんにちは。三豊市教育委員会のほうから三豊市教育委員の則久と申します。

皆さんと、見たら顔を拝見したことがある方もおいでますので、皆さんと一緒にあって、いいまちづくりに取り組んでいけたらと思っております。よろしくお願ひいたします。

(矢野委員)

豊中町で農業委員をしております、矢野といいます。ブドウと青パパイヤをつくっております。

農業人口が減る中で、いかにして底上げをしたらよいかを考えていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

(三木委員)

三豊市の自治会連合会の会長をしております、三木です。三野町から参りました。どうぞよろしくお願ひします。

(新延委員)

どうも、三豊市商工会会長の新延です。

今、商工会は三野町にありますけど、私も三野町在住です。現在はないのですが、財田のほうの方々が非常に大変で、会合に来るのに40分もかかるというかね、30分以上かかるところから来ていただいたりして、なかなか広過ぎる市も大変だなというところでございます。よろしくお願いいたします。

(田井委員)

三野町から来ました、NPO 法人チャイルドハウスみとよ、保育園をやっております、田井清と申します。今後ともよろしくお願いいたします。

(今川委員)

仁尾町の一般社団法人誇の代表の今川と申します。築100年の松賀屋という建物の古民家再生のほうの事業化を目指して活動をしています。

皆さん、よろしくお願いいたします。

(中村委員)

仁尾町から来ました。現在、かがわ暮らし応援隊っていう県庁のほうの委嘱を受けて、移住関係のことをやっています。

私自身が、48年間東京で生活しまして、平成23年9月にUターンで帰ってきました、それで現在そういうことをやっています。どこまでできるかわかりませんが、微力ながら頑張っていきたいなというふうに思っていますので、よろしくお願いいたします。

(砂島委員)

詫間町からまいりました、砂島と申します。女性の服と雑貨を扱うお店をしています。小さい店なのですが、女性の目線から見たまちづくりを楽しんでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(橋本委員)

財田町からまいりました、橋本と申します。私は、2年半前に農業移住で三豊のほうにやってきました。今、財田町の皆さんと一緒に、移住者を増やす活動をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

(黒田委員)

詫間町からやってまいりました、黒田です。よろしくお願いいたします。詫間でカフェをしています。どれくらいのことを考えて、どれくらいのことを意見できるかわかりませんが、一般市民として、皆さんの御意見をお聞かせいただいて、また、この市のことを考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(横山委員)

無双地図株式会社というところで、地域の案内などしております、横山昌太郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

以前は、環境省のほうで9年行政を担当しまして、その後、星野リゾートというところで、森のガイド、案内人を10年しておりました。三豊市民としての経験は浅いんですが、お役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(眞鍋委員)

詫間町からまいりました、眞鍋有紀子と申します。

本業は、富士建設という建設会社をしております。その中で、青年会議所とかに参加していたのですけれども、どんどんマンパワーが減っていく、税収も減っていくという中で、じゃあ、個人の方は何をやるの、企業は何をやるの、行政は何をやるのっていうのを考える機会がとて多くなりまして、じゃあ、企業にできることって何だろうというので、2年前にクラウドファンディングのサイトを立ち上げました。今回は、そちらのFAAVO香川の運営という立場で参加をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

(増田委員)

皆さん、こんにちは。私、百十四銀行の地域創生部、増田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもの銀行のほうは、4月から地域創生部というのを立ち上げて、香川県内特に中心として、地域の地方創生に携わっていくという形で、私のグループは、地域活性化推進グループという形で、本部のほうから参っております。三豊市にも支店がございまして、営業店と一体となって、これからの三豊市の少しでもお役に立つように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(平井委員)

学校法人四国学院の理事・評議員をしております、平井俊広と申します。

私のほうは、大学そのものが善通寺にあって、私が住んでいるところは綾川になりますので、三豊のほうは、あんまりよく存じ上げておりません。

ただ、私ども四国学院大学と三豊市は、一番初めに地域包括連携協定を結び、その後に、地元の善通寺市とか、香川県であるとか、各官公庁関係の方々とは包括協定を結ばさせていただいております。そういうことで、三豊市さんとは非常に縁が深い、そういう状況です。

かなり遠いところからお越しになっている方もいらっしゃると思うのですが、今日は歩いて、このちょうど市役所の前にあります、瀬戸内学院のほう、こちらのほうの理事も、この4月から常務理事ということでさせていただいて、ようやく半年を過ぎ、少しこの地域のことがわかってきたかなと。まだまだわからないことが多いので、いろいろと勉強をさせてい

ただきながら、少し、もし意見が言えるようであれば、またお話しさせていただきたいというふうに思っております。

専門のほうは、私のほうは、キャリア教育ということで、学生達にいろいろと今まで教えてきましたので、瀬戸内学院のほうでも、そういったことをしたいというふうに思っております。なお、私はこちら専従じゃなくて、学校法人四国学院のほうの理事っていうこともございますので、行ったり来たりというふうなことで勤務しているということ、御承知おきいただいたらと思います。どうかよろしく願いいたします。

(原委員)

香川大学大学院地域マネジメント研究科の研究科長をしております、原真志と申します。よろしく願いします。

私どものこの研究科は、いわゆるビジネススクールというものになりますけれども、2004年に設立しまして、特に地域活性化に貢献するMBA経営人材育成ということで、日本の国が地方創生ということで今ずっとやっていますけれども、それを言う前からパイオニア的にやってきたかなと思っております。8割がもう社会人、昼間に仕事を持っている方に来ていただいております。この三豊からも市役所の方とか、民間企業の方も来ていただいて学んで修養していただいて、いろいろと活躍をしていただいております。そういう地域活性化に貢献する教育研究ってことをしておりますので、そういった点からも何か貢献していければと思っておりますので、どうぞよろしく願いします。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、行政側の出席者につきましても御紹介申し上げます。先ほど御挨拶申し上げました、三豊市副市長の小野英樹でございます。

(副市長)

小野でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

後方になりますけれども、政策部長の綾でございます。

(政策部長)

綾です。よろしく願いします。

(事務局)

なお、私が田園都市推進課の課長をしております、石原でございます。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

同じく補佐をさせていただいております、芳地です。よろしく願い

たします。

(事務局)

主事で1年目の近藤と申します。よろしく申し上げます。

(事務局)

なお、本日、総合計画の策定業務の支援業者でございます、株式会社ぎょうせいの田口主任研究員と家久係長が同席をしておりますことを御報告申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

(研究員)

よろしく申し上げます。

(事務局)

ここで、本日の会議が審議会条例の第6条第2項の規定により、出席定数を満たしておりますことを御報告させていただきます。

次に、資料の確認をさせていただきます。本日の会議は、事前にお送りをさせていただいておりますけれども、資料1は、これは本日お配りさせていただいておりますけれども、委員名簿。資料の2といたしまして、総合計画関連例規。資料3、三豊市第2次総合計画・策定方針。資料4、市民アンケートの様式。資料5、子どもアンケート様式でございます。もし足りない、お忘れになったような資料がございましたら、若干事務局のほうで準備をしておりますので、お手を挙げていただけたらと思います。皆様、よろしいでしょうか。

4. 説明

- ・三豊市総合計画審議会条例
- ・三豊市総合計画審議会会議運営規則
- ・三豊市総合計画審議会の会議の公開に関する要綱

(事務局)

それでは、最初に本審議会の設置目的、並びに構成等について、事務局のほうから御説明申し上げます。

〈事務局による資料説明〉

(事務局)

ただいま御説明申し上げました関連条例、並びに例規につきまして、御質問等ございましたら、承りたいと思います。よろしいでしょうか。

(質問無し)

5. 会長及び副会長選出

(事務局)

それでは、会次第5の会長及び副会長選出に進みたいと思います。

先ほど御説明申し上げました審議会条例第5条の規定によりまして、会長・副会長は、委員の互選によって定めることとなっております。委員の皆様から御発言等をいただきたいと思いますが、何か御意見ありませんでしょうか。

(田井委員)

事務局の案はありますか。事務局一任で良いのではないのでしょうか。

(事務局)

今、田井様のほうから、委員のほうから事務局一任、事務局の案ということで御発言がありましたけれども、その他にはございませんか。

なければ、事務局であらかじめ案がございいますので、発表させていただいたらと思います。

事務局案といたしましては、本審議会の会長に香川大学大学院の原委員に、副会長に自治会連合会会長の三木委員にお願いしたいという案を持っております。

この案についていかがでしょうか。

(拍手。異議なしとの声あり。)

(事務局)

異議なしとの御発言もございましたので、会長には、原委員様。また、副会長には、三木委員様、御就任いただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、両委員につきましては、前方の会長・副会長席のほうへ移動していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、改めまして、ただいま会長に御就任いただきました原会長様から、御挨拶をいただきたいと思いますが、よろしく申し上げます。

(会長あいさつ)

(原会長)

ただいま皆様に御選出いただきました、香川大学大学院の地域マネジメント研究科の研究科長、原でございます。微力ではありますが、いろんな形で皆様の協力を得ながら進めていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

私は、三豊市の関係のことは、いろいろとこれまでもさせていただいておりますけれども、先週も地方創生の関係の会がありました。最近感じているのは、この三豊市は、地域をよくしようとする動きが、非常に草の根的に広がってきているなど感じております。

それは、先日の総合戦略会議でも報告がありましたけれども、移住者がかなり増えていると。きょうの会議でもそういう方が出席されておりますし、空き家バンクというものも、かなり活用が進んでる。あるいは、観光関係でも、みとよ 100 年観光会議という動きが、非常に民間レベルといえますかね、そうした市民の方々の動きがいろいろあるといった意味では、香川県の中でも、この三豊市の取り組みというのは、非常に先進的といえますか、いろんなことが実を結びつつあるのかなと感じているところです。

そして、それがまた今回この総合計画の次の計画をつくるタイミングになっているというのは、非常にもう時宜を得たものになるのじゃないかと。ここまで実績としてかなりいい形で積み重なってきているものを、これから先 10 年、いかにさらに実を結んで花を開かせていくかといういいタイミングのときに、皆様の御意見、知恵を借りてやっていくというのは、非常にいいことになるのじゃないかなと思っていますので、どうぞ協力していただきまして進めていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

6. 諮問 「三豊市第 2 次総合計画」の策定について

(事務局)

ありがとうございました。それでは、会次第の 6 番、諮問に移りたいと思います。

会長が決まりましたので、本審議会の代表として、原会長様に、諮問書を副市長のほうから交付いたします。

(副市長)

それでは、横山市長にかわりまして、私のほうから諮問書を交付させていただきます。

三豊市総合計画審議会会長、原真志殿。三豊市第 2 次総合計画の策定について諮問。

三豊市総合計画審議会条例第 2 条の規定に基づき、下記事項について、貴審議会の意見を求めます。

1、基本構想の策定に関する事項。

2、基本計画の策定に関する事項。

以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(原会長)

よろしく申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。ここで小野副市長におかれましては、他の公

務のため退出をさせていただきます。

(副市長)

委員の皆さん、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(副市長退席)

7. 議 事

(1) 三豊市第2次総合計画・策定方針について

(事務局)

それでは、これより7番の議事に進みたいと思いますが、審議会条例第6条第1項の規定によりまして、会長が会議の議長となることとなっておりますので、原会長のほうで進行をまたよろしくお願ひいたします。

(原会長)

それでは、着座で失礼させていただきますけども、早速議事のほうに入りたいと思います。

それではまず、議事の1、「三豊市第2次総合計画・策定方針」について、事務局のほうより、説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

〈事務局による資料説明〉

(原会長)

はい、ありがとうございました。ただいま事務局より説明をしていただきましたけれども、それでは、ここで委員の皆様より御意見や御質問をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。いかがでしょうか。

この第2次総合計画の趣旨や、その計画構成、計画期間、策定に当たっての基本的な考え方、策定スケジュール、といったところを順に説明をしていただきましたけれども、いかがでしょうか。今回の委員の方は、女性の委員も6人参加していただいている、結構そういった意味ではダイバーシティというか、さまざまな意見を、この場では自由に言ってもらえるかなと思っておりますけれども、そのときには、遠慮せずいろいろと言っただけであればと思いますけれども、いかがでしょうか。

はい。ではよろしくお願ひします。

(横山委員)

すいません。あんまりよくわかってないものですから、的外れな質問だったらすいません。前計画の評価っていうことが、どういう評価をされるのかなど、ちょっとお伺いしたかったんです。

(原会長)

では、事務局のほう、いかがでしょう。

(事務局)

ただいま、現総合計画ということで、この30年度末で切れます、そういった総合計画の中で、各種目標数値というものを設定させていただいております。

例えば、認定農業者数がどうなったのかとか、観光客入込客数がどうなったのかということで、現総合計画のそういった目標数値が、じゃあ、どういう状況になっているのか。また、平成30年度での実績見込値はどうなったのかということ、状況を、現総合計画のそういった指標をメインに各部署におきまして、その効果検証を行います。

なおかつ、達成状況調査シートということで、そういった個別にその達成度合いを各部署によりまして、何%程度達成できたのかといった数字的なものも求め、そういったシートにより、その達成状況、達成内容を文章で書いていただいて提出し、それをとりまとめさせていただいて、現総合計画の達成状況報告書を、最終的には作成させていただこうかと思っています。

その報告書を審議会のほうで御報告させていただいて、じゃあ、その次の第2次総合計画。例えば、現総合計画でこういうところが弱いのではないとか、こういうところをもう少し強くするべきのではないかといった意見をいただき、次の構想素案の骨子の御意見をいただこうかと考えてる次第でございます。

(横山委員)

追加でお伺いしてもよろしいですか。

(原会長)

はい、どうぞ。

(横山委員)

ありがとうございました。例えば、この後期基本計画の冊子でいくと、まちづくり指標っていうふうに書いてある部分が、チェックする項目ということなんですね。

(事務局)

はい。

(横山委員)

わかりました。個人的には、やっぱりこれからまちづくりとかしていく上で、子ども達とか、将来を担っていく人達が、どれだけまちづくりに興味持つか。それは、政治も含めてってことがすごく大事だと思っているんです。

教育というところを、すごく私、どういうふうに評価されるかなって

うのが気になっていたんですけども。例えば計画のこれでいくと、126ページのまちづくりの指標でいくと、ほとんどが耐震化率のみが指標になっているんですね。その前ページの学校教育内容の充実というところは、重点施策とは書いてあるのですけれども、こういうところが具体的にどう評価されるのかなというのが、ちょっと気になったものですからお伺いしました。

(原会長)

事務のほうはどうか、今の点については。

(事務局)

まさしく横山委員さんのほうからおっしゃっていただいた数値的なもの。いわゆるアウトプットというのは、当然、行政としてすぐ把握できるわけなんですけれども、今おっしゃられたような、そういった実際中身を充実させるといった本当にそれが反映されてるのといったことを、この後、市民アンケートの設問の内容を説明させていただこうかと思ってるんですが、そうした市民アンケート、子どもアンケートをさせていただいたその設問によりまして、そのアウトカムの部分につきましても把握をしていきたいと。そういった部分で把握してまいりたいと思っております。

(横山委員)

ありがとうございます。

(原会長)

そうした意味では、当初 KPI 的に設定したものはこれだけでも、それ以上の何かというものが、ちゃんとアンケートで把握していきますよという、そういうことになると思います。よろしいでしょうか。

(横山委員)

はい。ありがとうございました。

(原会長)

そういった意味では、現在のこの指標で把握する話と、これからやはり、その内容としてはどういう方向で少し改善といいますかね、こういう点も将来的には KPI でやったらいいのではないかというのは、そうした市民アンケート等の、この後、この後説明されますし、次の会議で、その成果については説明されるということで。そのあたりをどう次の総合計画に盛り込んでいくかは、その後の会議で議論できることになるかなというふうに思うのですけど。

そういう理解で、事務局のほうはよろしいですか。

(事務局)

はい。

(原会長)

はい、ありがとうございます。では、横山委員、よろしいでしょうか。

(横山委員)

ありがとうございました。

(原会長)

では、他にいかがでしょうか。他に御質問、御意見がある方はよろしくお願ひします。

先ほど冒頭で、現横山市長が勇退されるということは、この総合計画の運営上、少なからず何か影響があるのではないかというふうに、御心配される委員も多いのではないかと思いますけれども。

そのあたりの対応については、少し補足、御説明してもらったらどうかと思いますがいかがですか。

(事務局)

資料のほうで策定スケジュールがあったかと思ひます。資料で申しますと、資料2の策定方針の中の5ページ目をちょっとお開きいただけたらと思ひます。

こちらのほうで主な事業スケジュールということで、先ほど申し上げました、(5)市長等インタビューの実施がござひます。これが、実は当初9月、10月を予定してござひまして、現市長さんにそういった意向を確認した上で、それを予算と連動させて、本年度の予算を立てるといったことも考えてござひました。

これを11月にさせていただいて、そういった市長さんからいただいた意見を、この審議会で、市長はこういった考えで持っているといったことも踏まえまして、報告をさせていただこうかと思ひていたのですが、市長、市議選が1月に実施されるということであります。

今回、本年度で基本構想案を、どうしてもこれ策定していかななくては、次の平成30年度での計画策定には間に合いませんので、今のこういった現状、審議会のほうで先ほどの調査達成度合い状況でござひますとか、そういった部分を報告させていただいて、審議委員さんの御意見を伺ひ、当然それを新しい新体制、新市長さんにお話しさせていただいて、なおかつ、新しい市長さんが望むまちづくりに対する重点的に取り組むべき事項、そういったものを把握し、再度この審議会で諮るといったことを考えています。

若干これらの関係で、スケジュールに変動が生じる可能性はありますが、現時点では、こういった形で。2月の中旬、もう正確には、2月12日から新市長さんが新しく執務が始まるということで、それ以降に、速やかに現

況報告、並びに御意向を確認させていただいて、すぐさまそういった意見を、審議会で御報告させていただけたらと思っています。よろしく願いいたします。

(原会長)

ありがとうございました。そういった意味では、この第3回目の2月のところから、新市長の体制下での会議になるということで。それまでは、どういう市長になっても恐らく同じように作業をやっておいて、新市長になって、新市長の考える比重というものを反映したものは、その2月以降のところでは何とか対応しようという、そういう考えということでよろしいですかね。よろしいでしょうか。

(事務局)

はい。

(原会長)

ありがとうございました。では、他に何か御質問、御意見ございましたらよろしく願いします。どうでしょうか。いかがでしょうか。よろしいですかね。

じゃあ、私から最後にもう1点だけ。

このワールドカフェというものを実施される、これは非常にいいことだなと思うんですけども、最初に私がワールドカフェと聞いたら、外国人の方を入れるのかなというふうに第一印象で思ってしまって、説明文をよく読むと、そうでないということはわかるんですけども、ぱっと、これ市民にワールドカフェしますよといった場合には、外国人の方と交流する場と早とちりされてしまう可能性もあるのかなと。

ちょっとその名称は、もう少しわかりやすい、誤解を招かない表現にしたほうがいいのではないかというふうには思いましたけども、そのあたりはいかがですか。

皆さん、ワールドカフェで大体理解できますか。どうですかね。私は、外国人の方を招く会議とってしまったのですけれども。

(橋本委員)

私も同意見です。最近、特に業界のカフェとかもそうなのですけれども、片仮名英語をととても使われるので、よく意味が理解できないのですよ。

ですので、せめて市民、御高齢の方もいらっしゃるので、わかりやすい日本語というのを使っていくのが筋かなというふうに、私は感じています。その片仮名英語を使ったからといって、ちょっと聞こえはとても格好いいのですが、意味、何なのだということがすごく多いので、できればこういう会議では、日本語でわかりやすくというようにされたほうがいいか

なと思います。

(原会長)

はい、ありがとうございます。他によろしいですか。

(則久委員)

この会の流れというのがちょっと今わかってなかったのですが、今回出席させていただいて、今までの10年の歩みがどのようなもので、それがどれぐらい達成されているのか、わからない上でどうなるのかなと思っておりましたが、アンケートとか、この12月と2月のところで、いろんなところがわかって、10年今まで頑張ってきたことの実績を踏まえた上で次がよくわかってくるのかなという体制がわかりますので、また12月のアンケートの結果とか、2月の新市長との交流などで、また確立していけたらなということで、よくわかりました。ありがとうございます。また頑張りたいと思います。

(原会長)

はい、ありがとうございます。では、砂島委員お願いします。

(砂島委員)

話がちょっと戻るのですが、ワールドカフェのことなのですが、ちょっとさっき話が入ったように、海外の方も移住してこられたりというケースもあると思うのですが、そういう方に対しても、こういう意見を提供するような場があるんでしょうかということと、あと、ちょっとこういう取り組みをされてるっていうのが、私は初めてだったので、すごくいいことだなと思うんですが、具体的に11月開催ということで、どういったところで、どういった方が参加してっていうのが、もしお決まりであれば、ちょっと聞かせてもらえたらなと思いました。

(原会長)

ありがとうございます。では、事務局のほう、いかがでしょうか。

(事務局)

まずワールドカフェのタイトルであります。この後、まだ御意見、御審議いただいて、御提案いただけたらとは思っているところでございます。

それで、現在想定しているワールドカフェの実施体制なのですが、いろんな開催方法がありまして、例えば市内で、もうそれこそ、先ほどの市民アンケートと同じように無作為に抽出し、その方に対して招待状を送るといった形もあります。

当然、関係団体とか、そういったところにお声かけをさせていただいて実施していく方法もあります。

都会のほうでは、意外に無作為で抽出した方に招待状を送った場合、か

なり参加者が多いといった声もありますが。そこは、じゃあ果たしてこの三豊で、その方式が馴染むのかどうかというのを調査研究させていただいているところでございます。

そして、砂島委員のほうから御意見があった、外国人の方に対するアクションをどうするのかといったこともございますので、正直そこは事務局で想定しておりませんでしたので、こういった面を御審議いただいて、いただいた御意見で、じゃあ、外国人の方をそういった方も来てもらうためには、例えば、私が今勝手に言っていることなのですが、観光交流局とかにお願いするとか、そういった話で、せっかく開催しているのに来て頂けないのもあれなんで、そういったことも踏まえ、考えていきたいと思えます。

今回この審議会で、こういうものにしたらいんじゃないかというのも、どんどん御意見いただけたら、非常に助かるところでございます。

(原会長)

ありがとうございます。そういう意味では、きょうの会議の前に、矢野委員から、農業を外国の方も入ってきて農業していますよという話もお聞きしていましたが、そういういろんな観光や農業、いろんなところで、そうした外国人の方の御意見も聞けたらいいなと思えますね。

名称についてはどうでしょうかね。これは、ここで議論してよろしいですか。

(事務局)

はい。

(原会長)

どういった名称がいいか。最初このオープンに議論するという意味で、オープンカフェでもいいのかなと思ったけども、先ほどの御意見では、片仮名がよくないっていうような。より漢字と平仮名で。

(橋本委員)

平仮名がいいってわけではなくって、わかりやすい片仮名英語やったら構わんと思うのですが。

(原会長)

例えばどういう表現がよろしいですか。何かありますか。

(橋本委員)

何でしょうね。

(原会長)

行政的にというか、形式張らずにもう自由にという、そういうニュアンスをどう込められるかってことですかね。

(橋本委員)

井戸端会議ではないけれども、でも、そっちに近いほうの意味合いが、親しみ持てるのではないかと思います。

(原会長)

そうですね。

(橋本委員)

参加しやすい名称を。おじいちゃん、おばあちゃんとかも、ふと和らげるような感じだったらいいかなと思います。

(原会長)

何とか井戸端会議にするっていう。事務局では何か考えなどありますか。

(事務局)

補足で説明申し上げますが、他でどんな名前で実施されているのかを調べた事例を申し上げます。

例えば鎌倉とか関東圏とか、そういった都会では、ワールドカフェというのが、どうもそのまま使われているんですが、私も、最初にワールドカフェ聞いたときは、外国人の方を呼ぶのかなと、正直思ったところまでございまして。

他でしたら、例えば未来会議でありますとか、まちづくり会議、あと、タウンミーティングといった、こういったわかりやすい形で市民の方に周知し、実施してるともございまして。あまり事例が紹介できなかったのですが、このような感じなんです。

(原会長)

未来会議やタウンミーティング。まちづくり会議。そうか、会議っていうとかたい感じがしますね。だから、そういう意味でいうと、カフェという言い方は、ちょっと肩肘、あんまりそんなに気合い入れなくてもいいよっていう雰囲気を出しますもんね。井戸端っていうのも、どうでしょう。

(則久委員)

カフェっていうそのものですよ。そのやわらかい雰囲気、みんなが入りやすいっていうのが基本で、そういうふうな名前になってきていますよね。

(橋本委員)

まちづくりカフェ。まだやわらかいかなと。

(原会長)

まちづくりカフェ。それはいいかもしれませんね。他にどうですか。

まちづくりカフェというお話が出ましたけど。それはいい感じがする。とりあえず、暫定的にまちづくりカフェを、案の一つに加えて検討してい

ただけたらいいかなと思いますね。よろしいでしょうかね。事務局のほう、どうですか。

(事務局)

ありがとうございます。いただいた意見を、大いに参考にさせていただいて検討してまいります。ありがとうございます。

(原会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。他の論点、よろしいですか。それでは、まだもう少し議会も残っておりますので、よろしければ次に移りたいと思います。

(2) 第2次総合計画策定のための市民、子どもアンケートについて

(原会長)

では、議事の2、「第2次総合計画策定のための市民、子どもアンケートについて」ということで、事務局のほうから説明をよろしくお願いします。

〈事務局による資料説明〉

(原会長)

ありがとうございました。今、事務局より説明をしていただきましたけれども、市民アンケート、それから子どもアンケート、これにつきまして、また委員の皆様から、何か御質問や御意見がありましたら、よろしく願いたいと思います。いかがでしょうか。

今、子どもさんに対してのアンケートの回収状況、報告ありましたけれども、市民アンケートのほうは、どのような感じですか。

(事務局)

ただ今、約900通程度返ってきておまして、9月26日を締め切り期限とさせていただいており、今回ボリュームがかなり多い内容にもかかわらず、結構最初のほうですが、ありがたいことに皆さん書いていただいて回収も順調でありました。

やはりちょっと締め切りがもう過ぎているということで、ちょっとこの何日かは1日に1通、2通返ってくるかなといった程度で、ほぼ終わりかなと。

それで、回収率で申しますと、2,500通配布をさせていただいて、回収率が約36%ということで、統計的に見ても、何とか3割5分を超えているので、有効なものとなると思っております。本来は4割が望ましいところなのですが、今日も3通返ってきたのですが、ほぼもう終わりとなる状況ですので、最終的に、3割6分、7分程度で落ちつくのかなと。

それを今後分析させていただきまして、特に、自由意見とかを、いろん

なことを本当の発想で、ちょっと私どもも、なるほどと思うような意見を書いていただいていることもありますので。そういったことを、審議会で報告させていただいて、取り上げていただけたらと思っているところでございます。

(原会長)

ありがとうございます。他に何か御質問や御意見、ありますでしょうか。では、砂島委員、どうぞ。

(砂島委員)

ちょっと市民アンケートの内容なのですが、今住んでいる方に対してのアンケートが前回と比べるためになっていて、すごくいいなと思うんですけど。

もう一つ、方法として、私は以前、宇多津町に何年か住んでいて、宇多津町から三豊市に戻ってきたときに、宇多津町から転出というか、移ってきた理由、あと宇多津町はどうでしたかとか、また、今後どういうふうにしていけばよりよくなると思いますかというような御意見を、わざわざハガキで尋ねてくれたことがあり、出ていかれた方の理由から、そこに住み続けてもらうための施策を考えるというのも一つの方法かなと思ったので、ちょっとこの場を借りてお伝えさせてもらいました。

(原会長)

転出者に対するアンケートか何か、フォローアップというのはどうでしょうか。事務局はいかがでしょうか。

(事務局)

まさしく田園都市推進課で、定住促進にかかる事業もさせていただいております。そういった空き家バンクとか、また、市民課のほうにも協力依頼させていただいて、転入、転出者に対するアンケートを実施しており、現在もさせていただいているところでございます。

では、今いただいた意見に基づきまして、転入、転出者アンケートもさせていただいておりますので、そういった内容も御報告できるような形で、資料を準備させていただけたらと思います。

(則久委員)

先ほどのアンケートで、私もちょっと思ったことがあります。

このアンケートは、今回一般市民の方と、あと、小学校、中学校の子ども達ということだったのですが、本当にもうあと10年、もっとするうちには、もう1町1小学校というか、どんどんと少子化が進んでくるような現状がありますよね。

例えば成人を迎える今からを、もうすぐに担っていくような人達に、結

構意外と、もう県内を出てしまう方がおいでるので、魅力だとか、どういふふうな方向性を感じているとかというような、その成人式にちょっとアンケートを配布して意見を聞くとなど、今からすぐ担う子ども達に意見を聞くというのも、一つありかなと感じました。

(原会長)

ありがとうございます。そういった意味では、成人式というお話がありましたけれども、高校生なり、それこそ十代後半ぐらいの、本当に転出するか、とどまるかの意識決定を迫られる、真剣に考えないといけない。

(則久委員)

そうです。今からの10年を考えていくのだったら、今すぐの子ども達にも、まず聞いてというのも大事かなと感じますね。

(原会長)

そういった点は、事務局のほうはどうでしょうか。

(事務局)

それで、先ほどスケジュールでもお話ししましたが、実はこれ、事務局の中でも話し、まだ決定ではないのですが、まさしく今、則久委員様がおっしゃっていただいた将来を担う子ども達が、出て行って、本当に帰ってくるのか、そういった世代の子ども達に対し、先ほどのまちづくりカフェ、そちらのほうで、例えば学校とかに、そういったお声がけをさせていただいて、例えば大学とか、そういったほうの方向性のある年代の方を呼んで、今見通しをどう思っているとか、ここを出ようと思っているか、出ようと思っているなら帰ってくるのか、じゃあ、何があったら帰ってきてくれるとか、そういったざっくばらんな機会を、まちづくりカフェで取り入れていくのもいいなと思っていまして、そういった声も、何かしらの方法で拾っていききたいなとは考えています。

成人式の段階でお配りさせていただくスケジュールとなりましたら、ある程度どのような内容で実施するのかといった素案を今計画していると思いますので、そこにプラスアルファ何かできるかという要素は確認できると思いますので。

そこは、また事務局の中で検討してまいりたいとは思っています。ありがとうございます。

(原会長)

そのために、今、則久委員から提案があった、その成人式を利用するのは、いい機会ですよ。もしかしたら、一旦出ていっている人も戻ってきてくれている、そういう機会です。そのイベントをうまく活用したら、出て行ってしまった人にとってもという、その意見も聴取できるので、そ

の辺は少し時間がタイトになりますけども、何か工夫してもらえたらいいかなと思いますね。ありがとうございます。

他に、どうぞ。はい、お願いします。

(田井委員)

実は、子ども達のいろんなアンケート出てくると思うんですが、三豊市も恐らく過去にあったと思うんですが、市長さんとか、また議員さんとかの中で、各小学校の代表の子ども達が、そういう意見的な行政に対するものが、確かあったかなという記憶があるのですが。

先般、これは隣の市なのですが、たまたま三豊ケーブルが議会の中で、僕達のまちを、議員さんの前で、相手は議員さんです。それで座っているこちらの全部議員は、小学校の子ども達や中学校の子。それを私も拝見していた中で、やはり、これマスコミじゃないけれども、子ども達の考え方、ああ、このあたり、こういうことを考えているのかというのは、非常にわかりやすかった。これはあくまでも三豊ケーブルの中で見た感じなんですけど。

結局、こういったアンケートは、必ず子ども達には、あとアンケートの結果報告というものを、なかなか理解ができないけれども、せめて学校長とか、例えばその代表の者の中では、御協力ありがとうございましたという形を示さないことには、出しっ放し、私も過去、実は中学校のPTAとかいろんな会長云々をしたときに、アンケート調査をやりました。しかし、結果報告のないアンケートは、やはりいかんいうことで、結果を全部またもう一回皆様に返して。これも当たり前のことなのですが、やはりそういう書いたものについて、今後は何か、子ども達だからというんじゃないけれども、やはり小さな声もいいけども、学校にどんな、ところがこれ、名前書いてないから、誰それの何、名前というのはアンケート大体ないものだから、なかなか難しいと思うんですけど、非常にその中で選抜されて、事務局がその中で、なかなかいい方向のものがあったなという場合は、そういう全体に三豊市の小学校、中学校、また高校生の、こういうアンケートいただきました、これらを市議会で、これも三豊市頑張ってます、御協力ありがとうございましたというものを一筆添えて出したら、また次も書こうかなという感じがするのではないかなと思います。

私も三豊市の中で、子ども達を見ております。確かに、これから育つ子ども達のために、我々頑張って話し合いをしていったらと思います。どうも、そういうことで失礼します。

(原会長)

ありがとうございます。アンケート協力していただいた方に、フィード

バックをどうするかという大事な点かと思います。その点については、事務局はいかがでしょうか。

(事務局)

今回、特に子どもさんアンケートは、学校の校長会を通じてお願いをしました。当然、今、田井委員様からおっしゃっていただいたように、結果については、報告書ができた段階で、学校にもフィードバックしてまいりますし、市民アンケートにつきましても、ホームページで公開、結果報告書は公表したいと思ってるところでございます。ありがとうございます。

(原会長)

そういうフィードバックのときに、居住地区はアンケートでもう聞いて。これは市民のほうだけですか。子どもさんのほうは、その回収時の何かで学校はわかりますよね。

(事務局)

学校はわかります。

(原会長)

学校ごとに集計は可能ではあるんですね。

(事務局)

1 ページ目、一応学校名と学年を書いていただくようにしていますので、そういった数値も踏まえて報告書の中でさせていただけたらと思います。

(原会長)

ありがとうございます。よろしく願います。他にいかがでしょうか。

(増田委員)

こういったアンケートというのは、非常に有効だと思っていて、ちょっと戻りますが、市民にアンケートした回収率が、少し有効の数値に近いというところではございましたけれども。年齢のお話もありまして、これから回収して調査分析を今からということですが、回収の年代というのが、もうある程度結果が出ているのかなど。

先ほど、これからの未来をつくっていくのは若い人だという議論もありましたが、後で出てくるんでしょうけど、出てきてからではちょっとあれかなということで、ちょっとお伺いできたらなということです。

(原会長)

事務のほう。

(事務局)

市民アンケートのほうの1 ページの問1のほうで、あなたの年齢ということで設問を設けております。ただここで、年齢をもう一歳刻みでは聞いておりませんで、あくまでも年代ということで、1 から7までのこういっ

た枠の中でお伺いしているものでございまして。

当然、調査結果、集計する段階では、そういった割合的などころの辺からでも、じゃあ、何歳代の方はこういった意見が多いよとか、そういった分析もしてみたいなと思っているところでございます。

答えになっているかどうか、わかりませんが。

(増田委員)

現在の状況もまだ分かりませんか。

(事務局)

ちょうど今分析しておりまして、申しわけないのですが、ボリュームの多い内容であり、分析に時間を要しております。次の会議では速報なりを報告させていただけたらと思っています。

(原会長)

心配になるのは、若い世代の回収率が低いのではないかと。

(増田委員)

そうですね。もう今からでもどうしていくかで。

(原会長)

なので、そういった意味で、若い方々のアンケート回収率が低かったら、ちょっとてこ入れをして、若い方に対して少し催促をすとか、そういうことの手立てを。

今ならまだ間に合わないかなとか、そういうことがあるのではないかなという気はしますけど、増田委員の御懸念も、そういうことではないかなと思いましたが。

(増田委員)

そうですね。

(原会長)

そのあたりはどうですか。ざっと見て、厳密な回収率というか、年齢ごとはまだでしょうけど、ざっと見て、若い人のそれはどうかというのは。

(事務局)

本当にざっと見て、あれなんですけれども。若い方からもぼちぼち返ってきていただいているかなと感覚です、ごめんなさい、これが蓋を開けたら全然返ってきていないとかいうのも辛いので、私の見た感覚でのお話しとなります。

最初懸念していたのは、かなりのボリュームなので、これ、本当に返ってくるのかなと思ったら、お配りさせていただいた2、3日後には、束になって結構返ってきてまいりました。それを開いたら、当然丸は書いていただいているんですが、この特に最後の裏の自由意見の欄のところにも結構書い

ている方がおいでます。

例えばキャッチフレーズでも、「老いも若きも三豊市だ。」みたいなことも書いていただいている方もおいでたりします。皆さん、本当にありがたいことに取り組んでいただいているなと思っているところでございます。

イメージ的には、三十代、四十代ぐらいの方が多いかなという感覚ですけど、決して若い人が居ないというのも確かにどうかと思いますので、そういった状況となったら、当然そういった声ももっと拾わなきゃいけないのではないかとといったこともあろうかと思っておりますので。その点は、今回御意見いただいておりますので、そういった点に留意して、集計で分析させていただいて、じゃあ今回こういう年代が少なかったです、こういう手立てで、もうちょっと幅広い意見を取り入れていこうとかいったのは、当然調査研究をさせていただきます。ありがとうございます。

(原会長)

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

(則久委員)

いいですか。

(原会長)

はい、どうぞ。

(則久委員)

回収率の件なのですが、35%で、そんな多いほうではないかと思うのですが、これを結構前から配布されていることと思います。だから、出そうと思う人は、多分早くは出していると思いますし、まだ出してない人、いささか出す気がない人など、忘れていている方もおいでると思うんです。もうちょっと皆さんの意見を聞こうと思ったら、もう少し回収率が上がったほうが、よりいいのではないかなと思います。

例えば有線放送とかで、締め切りは終わっていますがまだ大丈夫ですとかいうことで、そういう周知をすると、思い出すとか、もっと書いてくれて、もっと意見が集まるかなという思いはあるんですが。

35%って、妥当なんでしょうか、回収率として。

(原会長)

これは、一般的なアンケートからいうと、よく集まったほうだと思いますよね。ただ、今までの経緯からすると、もうちょっとあったほうがいいのかということかな。つまり、回収率の定義がありますからね。

これ、そういう意味でいうと、無作為で依頼をして35%。このボリュームのアンケートからすると、よくやっているほうではないかという気はしますけどもね。相当これは時間かかる、面倒くさいアンケートではあるの

で、よくこれ答えてくれたなという感じもしますけどね。

でも、最初から書ける人は書かれるけれども、忙しくてなかなか忘れてしまってる層こそが、意見が聞きたいという、そういうところもあるかと思えますのでね。なので、確かにプラスアルファの何かが。

(則久委員)

今からの大事な一つになると思います。

(原会長)

そうですね。そのあたり検討もし可能であれば、今おっしゃられた有線放送なり、何なりっていうところでの働きかけで、締め切りを少し延長しますということが、もし技術的に可能であれば、検討をお願いできたらと思いますが、事務局のほういかがですか。

(事務局)

ちょっと分析作業のほうと照らし合わせて、まず検討させていただけたらと思います。すいません。ありがとうございます。

(原会長)

ありがとうございます。他に御意見、御質問いかがでしょうか。はい、橋本委員どうぞ。

(橋本委員)

アンケートの内容ですけれども、私、移住してきて2年半で、この市民アンケートのほう、内容が答えられないものも多々ありまして。

例えばコミュニティバス。1回も乗ったこともないし、離島航路も使ったこともないし、消防体制って、消防団があるぐらいしか知らないということで、これ満足度と重要度。恐らく重要度に関しては、お答えできると思いますが、満足度に関しては、わからないという答えがないので。

確か、こっちに越してきて数カ月で、娘のところにコミュニティバスか何かのアンケートが多分届いたのですけれども、利用したことがないから答えようがないと言って娘はアンケートを出さなかった。

なので、三豊に住んで何年になりますかとか、そういう設問があると、ちょっと答えられてなくてもその理由がわかっていただけかなと、私は感じました。

(原会長)

そうですね。その一つ、まず、回答の選択肢として、わからないというのがないと困るなというのと、それから、居住年数ですね。これも私、事務局のほうには、意見として言いましたが、居住年数のデータを取ったほうがいいですよという話、2点ありましたけど、事務局のほう、その点はいかがですか。

(事務局)

もう、まさしく今いただいた御意見で、同じようにそういった問い合わせをお電話いただきました。満足度といっても、まず判断できないといったことで、そういった方がおいでたというのが事実でございます。

今回、そこは反省しているところでございます。そういった方に対しての答えについては、当然、判断できないところは、もう飛ばしていただいて結構ですというお答えをさせていただいたところですが、ちょっとある意味、どうしても前回調査との対比に重きを置いたつくりになってしまっており、その点、ごめんなさい、反省しているところでございます。

(原会長)

よろしいでしょうかね。

その辺、なかなか10年前と比較するという制約条件がどうしても出てしまうということではありますけれども。

確かに、どっかに一言、わからない場合は空欄でよいというようなことがあると、まだよかったのかというふうな気もしますね。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。大体意見としては出尽くしましたでしょうかね。ありがとうございます。それでは、これで議事については完了いたしました。

8. その他

(原会長)

では、「その他」ということで、まず1点、私のほうから皆様にお諮りさせていただきたいことがございます。

この会議録ということですね。本審議会の会議録につきましては、「三豊市総合計画審議会の会議の公開に関する要綱」第6条の規定により、会議録の公開に努めるものとする定められています。

その会議録の確認については、会議録を事務局で作成していただいた後、私と副会長に送っていただいて、会長、副会長の確認が得られたという時点で公開させていただくという流れにしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なしとの声あり。)

(原会長)

ありがとうございます。では、会議録の公開につきましては、そのような流れで公開させていただきたいと思っております。

それでは、その他、委員の皆様から、この機会に申し上げておきたい意

見等何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、特に御意見が他にはないようでございますので、本日の会議は以上とさせていただきます。御審議、御協力ありがとうございました。では、事務局のほうにお返しをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(事務局)

長時間の御審議、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。スケジュール説明にもありましたとおり、一部タイトなスケジュール、また流用的なところもございますが、本日皆様からいただきました意見等を反映した上で、資料等を作成し、審議会がスムーズに運営していただけるよう努めたいと思いますので、どうぞ御協力のほうをよろしくお願いいたしますを申し上げます。

なお、次回の第2回審議会につきましては、12月の開催の計画をしております。案内等につきましては、また改めてさせていただきたいと思いますので、何とぞ、よろしくお願いいたします申し上げます。

最後に、綾政策部長のほうから、お礼を申し上げます。

(政策部長)

それでは、長時間、また、御熱心に貴重な御意見をいただきありがとうございました。

今回は第1回目の会議ということ、スタートアップということ、概略、概要の説明ということになってしまいましたが、次回からは、いろいろなアンケート結果、さらには、効果検証の結果等々を踏まえて、御審議いただけたらいいのかなと思っています。

正式には2回目からかなと、私自身は思っています。いずれにしても、31年度から10カ年のまちづくりの計画、これはもうまちづくりの設計書となりますので、観光振興基本計画であったり、健康計画であったり、環境計画だったり。その最上位にくる総合計画となりますので、皆様方の今後2年間ということになりますけれども、どうぞ御審議のほうよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、第1回三豊市総合計画審議会を閉会いたします。

皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

9. 閉 会

(終了)